

「トム・ソーヤー塀を塗る」の狂言風翻案
——能法劇団 35 周年記念講演のトウェーン翻案脚本——

Staging *Tom Sawyer Paints the Fence* in Kyogen style:
The Noho Theatre Group's 35th Anniversary Twain Adaptation Script

Jonah SALZ

ジョナ・サルズ

概 要

マーク・トウェインの1876年の『トム・ソーヤーの冒険』から、の古典的な「塀を塗り」の物語を、2019年の能法劇団の35周年に翻案しました。Twainのユーモアが狂言構成でピッタリあったが著者と多くの観客の意見。

キーワード：狂言、翻案、マーク・トウェイン、トム・ソーヤー、異文化演劇、喜劇

Abstract

Mark Twain's classic 1876 tale of whitewashing the fence from *The Adventures of Tom Sawyer* was adapted for the Noho Theatre Group's 35th anniversary in 2019. Kyogen classical comedy style was employed, seemed to me and many in the audience to fit perfectly with the oppressed servant's turning the tables on an oppressive master.

Key words : Kyogen, Adaptation, Mark Twain, Tom Sawyer, Intercultural comedy

はじめに

マーク・トウェインの1876年の『トム・ソーヤーの冒険』から、の古典的な「塀を塗り」の物語を、2019年の能法劇団の35周年に翻案しました。9人のキャストで、舞台化に適応するのは困難でした。それでも、狂言の構成がピッタリあったと思われます。太郎冠者（召使い）が意地悪な主と戦う、楽しい歌と踊りで終わります。

トム・ソーヤーは、勇敢で利口で素朴だが少々無法者でもあるという、アメリカン・ヒーローを体現する腕白少年としてアメリカ人に長く愛されてきました。ポリーおばさんの家の壁を塗るという重労働からどうやって逃げ出すか、というトムの物語は、狂言の、いたずら好きで怠け者の太郎冠者の精神にぴったりとフィットするもののように思えました。しかし、劇の翻案と演出を始めると、『壁を塗る』はそれよりむしろ、操縦的な上司による労働者の搾取というアメリカ資本主義の寓話であるように感じました。そして稽古が終わるころには、この馬鹿げたお話には、もっと幸せな、そしてもっと日本的

であるのかもしれないメッセージが埋め込まれているとわかってきました。すなわち協調して働くことは、それが困難な仕事であっても、一人でゲームや玩具で遊ぶよりも豊かで長続きのする、大きな楽しみだということです。

このテキストはもともと英語（ザルズ）で書かれていましたが、日本語でより狂言的になり（茂山千之丞）、飛鳥井かゝりによる対話として分かりやすい日本になりました。

I adapted Mark Twain's classic 1876 tale of whitewashing the fence from *The Adventures of Tom Sawyer* for the Noho Theatre Group's 35th anniversary in 2019. Featuring a cast of nine, it was challenging to adapt to the stage. The story begins in the present, with Aunt Polly reflecting on Tom's misdeeds, then shifts scene from indoors to outdoors as she explains the awful punishment: giving up a Saturday in spring to whitewash their high, wide fence. It features his brother and servant briefly, in particular Missouri and southern black accents that are difficult to replicate in Japanese. Yet the plot at heart seemed to me fit well with Kyogen's spirit of servant's turning the tables on mean masters. These features of 下克上 "the underdogs overcoming their lords", is an essential undercurrent to much of kyogen's topsy turvy dramaturgy. Painting the fence was easily embodied by the rhythmic onomatopoeia and mime that is kyogen's specialty, and in our version introduced a delightful song and dance finale.

Tom Sawyer has long been beloved by Americans as a scamp of a boy embodying the American hero: brave, clever, and naïve, but also a bit of an outlaw. The story of how he manages to escape the heavy chore of painting Aunt Polly's fence seemed to perfectly fit with Japanese kyogen's spirit of Taro Kaja, the mischievous and lazy servant. As I started adapting and directing the play, however, I felt that *Painting the Fence* was also a fable for American capitalism and the exploitation of workers by manipulative bosses. Then by the end of rehearsals, I began to feel that there was a happier, perhaps more Japanese message embedded in this comical story. As each child, eager to have a chance to paint the fence, exchanged a precious toy for the brush, they joined in joyfully to the group whitewashing. Working together in harmony, even a difficult task is great fun, much richer and lasting than playing alone with your games and toys.

The text here was originally written in English (Salz), made more kyogen-like in Japanese (Shigeyama), then made easier as dialogue by Kagari Asukai. The roles were cast before the script was finalized, as we developed the performance, so the language reflects both the characters' and actors' idiosyncrasies. Since the bilingual kyogen actor Shigeyama played Tom, his lines were written in Edo-period servant mode, while other more contemporary characters spoke modern Japanese, including the senior actor Maruishi's portrayal of the 11-year-old Ben.



Fig. 1 Sennojo Shigeyama invents and demonstrates the whitewashing kata in rehearsal.

トム 嘘ではござらぬ、真実全部終わりました。嘘じゃと思うならばどうぞ見てみさせられい。

ト、トムはおもちゃの山を持って退場。

ポリー まさか本当に終わったって言うのかい？どれ、確かめに行こう



Fig. 6 Polly returns to check the fence, but gets caught up in the song and dance of whitewashing.

かね。もし本当なら、あんたはちゃんとしようと思えば出来る子なのかね。

ト、ポリーは塀を塗る人々を見つける。

ポリー おやおや、なんだい。みんな何をしてるんだよ。騙されてるよ。

友人 唄 ほつといてください、僕らはみんな楽しんでるんです、もうすぐ終わりますから！

ト、友人達は筆を使いペンキをポリーにかける。

ポリー（ブラシを手に取り）もうこの子達ったら、おやめったら……いや、私もちよつとやってみようかしら。塀を塗るなんて久しぶりだねえ。

ト、ポリー一巡塀を塗ったところで「ああ楽しいもんだねえ」というセリフをきっかけに全員でルーティンを一巡する。

ト、歌って踊りながら全員退場

塗ろうよキレイに

塀を白く

トムが見てる

手を止めるな

真つ白な塀を

みんなで塗ろう

楽しく塗れば

（ホラ）出来上がりだ！

サミー（ティム）とネッド（ノエル）ノエルはカウボーイとインディアン
 ていで入場。声をあげ銃を撃ち、サミーは撃たれて倒れる。ネッドはサミー
 の首を取ろうとする。彼らはトムとトムの両側に立ち、二か国語でトムとやり取り
 をする・ベティに教えるように指示する。

ト、「ジョニー・ジョナ」ハーモニカでヤンキードウドル（注…アルプス
 一万尺）を演奏しながら登場。トムはハーモニカを取り上げ、ハリエットに
 指導するよう指示する。ジョニーは代わりにカズーを演奏する。



Fig. 4 Tom continues collecting toys in exchange for friends' painting the fence.

ト、ジョナの「よく出来た」をキッカケにトムが笛を吹く。するとそこから
 英語の歌が始まる。英語の歌後に直ちに日本語の歌が始まる。

塗ろうよキレイに
 塀を白く
 トムが見てるぞ
 手を止めるな
 真っ白な塀を
 みんなで塗ろう
 楽しく塗れば
 （ホラ）出来上がりだ！

ト、そのままルーティンを始める。「えいえいドブン」の後声を落とす。

ポリー トムがまたサボって逃げ出さないか、様子を見に行かないと
 ね。どれぐらい塗れたかしら。トム、あんたどこへ行くって言うん
 だい？

トム おばさん、もうみな終わりました。
 ポリー トム、嘘だけはやめておくれ。



Fig. 5 Two friends, played by Tim and Noel Medlock, enter playing cowboys and Indians.



Fig. 3 Tom pretends to enjoy whitewashing, declining Ben's pleas to give it a try.

望むように塗れる子供など、千人に一人もおらんであろう。

ベン なに、そんなに？おいトム、身共にもちとやらせてくれい。ほんの少しだけ。

トム やらせてやりたいが、そちにできるかどうか…。

ベン 身共なら出来る、なあトム頼む、ちとやらせてくれい。

トム いや身共はそちに塗らせてやりたいが、それでもしこの塀に何ぞあったらポリーおばさんがなんというか…。

ベン 大丈夫じゃ、丁寧に丁寧に塗るから、もしやらせてくれたら、そうじゃ、このリングのヘタをやろう。

トム いやあ、そんな食べさしのリングぐらいでは…。えいえいドブン、ぼたぼたシャツシャツ。ペッタリペッタリ、サラサラシユツ。塗り残し、ちょちょんがちょん。

ベン ならばりんごもやって、オールも帽子も貸そう！

トム んん…、そこまで言うなら仕方があるまい。少しだけ塗らせてやろう。じゃが、必ず必ずゆっくり丁寧に塗るのじゃぞ。ポリーおばさんは殊の外うるさいからな。

ベン 何がさて心得た。

トム どれ、やり方を教えてやろう。

ベン おお、教えておくりやれ。

ト、ベンにルーティンを丁寧に教える。

ベン どうじゃトム、これでよいか？

トム まあ初心者にしては悪くないな。じゃがもつと筆先に力を込めてやらねばならぬ。それに見よ、ここに塗り残しがある。これをおばさんが見たら…。

ベン (急いで塗って) ほれ、これでどうじゃ！

トム うん、その調子じゃ。さあどんとテンポよく塗らしめ。

ト、「ダニー・ダイガク」舞台袖で馬を追う声、荒々しく乗馬の真似をし登場。円を描くように動き、最終的にギャロップしながら入場。

ト、「ハリエット・ハイデイ」シャボン玉を手で登場。泡が屋根の上へ上がるのを眺め、トムといちゃつく。トムはベンに教えるように指示する。

ト、「ヘンリー・シマダ」西洋けん玉を持ち、111、112…と数えながら、ブラシについてトムとゾンビに似たやり取りをし、集団に参加しても数字を数え続ける。

ト、「ベティ・ビテン」鳥の笛を吹き、双眼鏡を覗き鳥を眺め、巢を見つけ鳥の名前を記載する／もしくはスケッチする。(トムは彼女を眺め、魅了される)

ト、「アルビン・アキラ」ハンティング帽を被り、ベティを後ろから追いかけて、パチンコで彼女の見える鳥を狙うが外す。代わりに口笛を吹いているトムに当る。(トムはベンに彼に教えるよう指示する)

ポリー あたしや簡単な仕事だと言ったけど、誰も早く終わるとは言っていないよ。

トム ええ、せっかくの土曜日が…。

ポリー じゃあ頼んだよ。万が一早く終わったら川へ泳ぎに行けるかもしれないんだからね。あははは。

ト、ポリー退場。

トム (ここは英語で) (塀を見つめながら) ああ、せっかくの土曜日の朝、日は高く清々しい空気に満ちあふれ、道ゆく人の足取りも軽い、身共を除いては。はあ、是非に及びませぬ、塀を塗ろうと存ずる。(塀を塗る型) どぶん。ふむ、こんなものであろうか。ああ、この調子では秋の始業式に間に合うかしらん。友達たちは皆川へ泳ぎに行くであろう。ここを通りかかって身共が罰で塀を塗らされているのを見たならば、さぞ笑うことであろう。ああ、何ぞ塀を塗らいで済む、良い調義はないかしらん。いや、良いことを思いだいた。友達たちに何ぞやって、代わりに塀を塗ってもらうのは何とであろう。どれどれ、持ち合わせには何があったか。ブリキの兵隊の…足だけ。ピー玉…は割れている、半分たべてしもうたガム。これでは誰も塀など塗ってはくれない。ああ、他に何ぞ良い案はないかしらん。いや、思いだいた致しようがござる。

ト、トムの「えいえいどぶん」きっかけでベン登場。丸太で出来たイカダに乗ってミシシッピ川を下る船長の真似をしている。イカダを漕ぐ…最初は緩やかに、途中は急流、最後に岸に接岸する。前方霧の中から大きな蒸気船が現れ、歓声を上げ、口笛を鳴らす。セリフ「機関停止しました。よし。リンリン…しゅつ」をキツカケにトムは声を大きくする。

ベン へっへっへっ。下手こいちまったなあトムよ。土曜日に仕事さ

せられるなんて、ポリーおばさんは大分お冠みたいじゃな。

ト、トム無視して塀を塗り続ける。

ベン おーいトムくん、お仕事大変じゃのうー？

ト、トム急に振り返り、

トム おおベンではないか。集中しすぎて気づかなかったわ！(塀塗りに戻る)

ベン 身共は今から、川に泳ぎに行くのじゃ！み・ど・も・は！そちも川へ泳ぎに行かぬか？あ、そうか、そちは仕事をせねばならんかったか！こりや失礼(笑)

トム 仕事とは？

ベン 今してるそれ、それは罰に言い付けられた仕事をしているのであろう？

トム ふむ、仕事か。確かに、仕事といえば仕事かもしれんし、仕事ではないと思えば仕事ではない。少なくともこのトムソーヤにはな。

ベン へっへっへっ、強がるなトム。まさかそちは好きで塀を塗つてるとも言いたいのか？

トム 塀塗りが嫌いでなければならん理由でもあるか？大体子供が塀を塗らせてもらえることがどれぐらいあるだろうか？

ベン なるほど、おいトムよ、身共もちと塗ってやつてもよいぞ？

ト、トムはベンをとめながら。

トム いやダメじゃ、ダメじゃベン。あんな、ポリーおばさんはこの塀の出来について殊の外細かい。ほれ、表通りに面しているこの塀のことはな。丁寧に、丁寧にせねばならぬのじゃ。この塀をおばさんが

ト、トムはバスケットの後ろに隠れて松羽目の幹にカモフラージュする真似。
ポリー、舞台をジグザグに歩きながらトムを探す、切り戸の中までも覗く。
トムはポリーが切り戸を調べている間に階から逃げようとする。ポリー、トムを見つめる。

ポリー トム！トム！あの子ったらどこに行っただろうね。トム！もし見つけたらタダじゃ…。トム！

トム (ワキ座へ行き) ああ、ポリーおばさん。

ポリー 今からどこへ行くのってんだい。

トム え、今日は土曜日、土曜日といえば川へ行って泳いだりピクニックをする日でござる。

ポリー 残念だけど今日は違うよ、こっちはおいで。(舞台を道行きのように回りながら) あんたまた学校をサボっただろ。それに私のチェリーパイも勝手に食べただろ。(トムは否定する) いや、隠したつて無駄だよ、こっちはおいで。だから、今日はあんたに罰を与えなきゃいけない。私の用事を手伝ってもらおうよ。



Fig. 2 Aunt Polly (Kagari Asukai) searches for Tom (Sennojo Shigeyama), who tries to disguise himself as a pine-tree.

トム どんな用事でござる？あ、アップルパイのためにリンゴの皮むきをしましょうか？

ポリー いや、あんたに皮をむかせたらリンゴどころか、砂糖やシナモンまで平らげちゃうんだから。

トム あ、じゃあ街へ買い物に参りましょうか？

ポリー いや、あんた街へ出たら用事なんかしないで友達と遊ぶつもりだろ？

トム いや、そんなことは…。

ポリー トム！あんたは今から家の周りの塀を白く塗っておくれ。

トム 塀を塗る？

ポリー そうとも。塀がだいふはかかっているからね。

トム 塀など、怒られそうな時に飛び越してにげだせるかどうかが大事で、塀がハゲてるかどうかなんて誰も気になどするものでござるか。

ポリー だーめ、ここは随分と人通りもあるし、ハゲたままじゃご近所さんに笑われちゃうでしょ。トム、塀を塗っておくれ。

トム でも私は今までイス一脚すら塗ったことはござらぬ。

ポリー (装飾された中華風扇子でマイムしながら) 大丈夫、簡単な仕事だよ。まずペンキをつけて、で余分なペンキを落として、塀の上から下まで力強く塗るだけさ。で、後は塗り残しがあつたらちよんちよんと塗り足して、次の板に取り掛かればいいだけだから。(バケツとブラシを手渡す) 1回目から完璧じゃなくっても大丈夫。

トム 1回目？

ポリー 二度塗りの時にキレイに仕上げればいいんだよ。ペンキもブラシもたくさん持ってきたからね。

トム 二度も塗るのでござるか。

ポリー もちろん。

トム でも塀は家の前全部、(壁を大きく見回しながら) こーんなにあります！丸一日かかって出来るかどうか。

『トム・ソーヤ 塀を塗る』 (マーク・トウェイン 『トムソーヤの冒険』 より)

(翻案・演出) ジョナ・サルズ
(脚色) 茂山千之丞 & 飛鳥井かづり



ト、舞台袖からボリーの声。

ボリー トム?トム? あの子ったらどこへいったんだろうねえ。なんて呆れた子。昨日も学校をサボって私のチェリーパイを食べてしまった。気をつけているのに。年寄りってダメだね。あの子ったら、二日と同じ手は使わないんだから。今度はどんなことをやるか見当もつかない。どうやらあの子は、どのくらいいじらしたら、私がかん

しゃくを起こすかを、ちゃんと知ってるらしい。それに、ほんのちょっと私の気をそらすか、笑わせるかしてしまえばかんしゃくはすつかりおさまって、あの子をぶてなくなることも知ってる。確かにわたしやあの子のためになるしつけをしてないよ。聖書にも子が可愛けりゃ鞭でぶてって言うてあるんだもの。だけど死んだ妹の子だからね。なんでぶてるものか。でも、あの子を許すたびに私の良心が咎める。私は罰としてあの子を働かさなければならぬ。

他の子たちが遊んでいる土曜日に、あの子を働かせるのはひどくつらいけれど、何しろあの子は、仕事をするのが何より嫌いなんだから。だけど、私がきびしくしないと、あの子をダメにしてしまうもの。

ト、トム登場、バスケットを手に持っている。本舞台へ入場。

トム (一の松にて) これはこの辺りに住まい致す、トム・ソーヤと申すものでござる。今日は土曜日でござるによって、友達達と川へ泳ぎに参り、又この籠一杯にブルベリーを摘み参ろうと存ずる。ああ、ありゃボリーおばさんの声じゃ。母さんが亡くなってからずっと面倒を見てくれているボリーおばさん。声の調子からするに、また今日も何やら叱られそうじゃ。